

日本の精神文化を今一度

厚別店店長 穂積 豊仁



新年あけましておめでとうございます。
昨年中は、格別のお引き立てを賜りまして、厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

今年2013年は、5月に「国譲り」の神話の舞台となった、神々の故郷、出雲大社が、60年に1度の大遷宮を迎え、10月には、天照大神を祀り最も大切な聖地である、伊勢神宮の20年に1度の式年遷宮が、行われます。

2つの遷宮が重なるこの年は、現代の日本人が失いつつある、尊い精神性を、取り戻すきっかけをつかむ、またとない機会ではないかと思えます。日本は、戦後最大の不景気に見舞われ、東日本大震災での、甚大な被害に加え、原発の事故問題も、いまだ、解決の糸口すら見つからない状況に、追い込まれています。

今、必要とされているのは、お金や、地位や、名誉などに、至上の価値を置く、功利主義、物質主義的価値観からの、転換ではないかと思えます。

そこで、皆様に、読んでいただきたいと思うのが「教育勅語」です。明治天皇が、生きていくうえで必要な、道徳観を、国民にきちんと伝えたいと、切に願ひ315文字という言葉で、記されました。

こうして作成された、教育勅語は、まず、両親、兄弟、夫婦といった、家族を大切にしようと説き、次に、友達や、近隣国へと礼を尽くす対象を広げ、さらに、愛国心へと至っています。

そして、付随する「教育勅語の12徳」では、人が生きていくうえで、心がけるべき教えが、簡潔に示されています。ここに示されている、すべては、古き良き日本の叡智からの、言霊です。

当たり前のことが、当たり前にはできない、そんな時代に、私たちは、もう1度、日本の心を洗い直し、見直さなければならぬかもしれません。今こそ、日本人が大切にしてきた、文化の根源を探るべきだと思います。

この大自然の中で、生かされていることに感謝し、ひとりひとりが、自分の足元を見つめながら、自分の事より人の事、利他愛に生き、足るを知り、慎ましく暮

らす。そして、人と争わず、謙虚に生きていければ、どんなに素晴らしいでしょうか。

しんと降り積もった雪が作る、常若の銀世界に、心洗われ、朝陽に照らされて輝く、清々しい世界に、今日も精一杯生きようと、勇気をもらいます。



まほろばで頂いた、縁を大切に、自分自身を正しく修め、周りで支えてくださる、すべての人の為に尽くしていきたいと思えます。

今日も生かされている喜びを感じ、新年の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【教育勅語の十二の徳目】

こうこう

孝行 親に孝養をつくしましょう

ゆうあい

友愛 兄弟・姉妹は仲良くしましょう

ふうふのわ

夫婦ノ和 夫婦はいつも仲むつまじくしましょう

ほうゆうのしん

朋友ノ信 友だちはお互いに信じあって付き合ひましょう

けんそん

謙遜 自分の言動をつつしみましょう

はくあい

博愛 広く全ての人に愛の手をさしのべましょう

しゅうがく

修学 習業 勉学に励み職業を身につけましょう

ちのう

智能 啓発 知識を養い才能を伸ばしましょう

とくき じょうじゆ

徳器 成就 人格の向上につとめましょう

こうえき せいむ

公益 世務 広く世の人々や社会のためになる仕事に励みましょう

じゅんぽう

遵法 法律や規則を守り社会の秩序に従いましょう

ぎゆう

義勇 正しい勇気をもって国のため真心を尽くしましょう

本年もどうぞ
宜しくお願い致します。

平成二十五年

元正